



力が付いている問題

◆図表やグラフなどを用いた目的を捉える

1 (一) 正答率 73.0% (71.2%) 資料をどのような目的で用いているか、適切なものを選択する問題

◆話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる

3 (三) 正答率 70.4% (68.2%) インタビューにおける話し手の思いや考えに着目して心に残ったことを書く問題

課題が見られた問題

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う

1 (四) (1)ウ 正答率 23.5% (35.6%) 文章の中の下線部を、漢字を使って書き直す問題 (かんしんをもってもらいたい)

◆目的に応じて、質問を工夫する

3 (二) 正答率 64.4% (67.4%) インタビューの場面における、質問の工夫としてふさわしいものを選択する問題

- * 同音異義語を書く問題の中でも、「対象」は全国を大きく上回り (正答率 48.1% (41.9%))、「関心」は全国を大きく下回りました (正答率 23.5% (35.6%))。
- * 「C読むこと」の問題は、3問すべてで全国を下回りました。
- * 無回答率が全国より高い問題が14問中5問ありました。



国語に関する児童質問紙の結果に注目してみましよう

	県	全国	差
○昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館に行く (週に1回以上)	24.0%	17.2%	+6.8 ↑
○新聞を読んでいる (週に1回以上)	23.1%	19.0%	+4.1 ↑
△国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように理由を示したりするなど、話や文章の組立てを工夫している	65.5%	68.5%	-3.0 ↓
△国語の授業で文章や資料を読むとき、目的に応じて、必要な語や文を見つけたり、文章や段落どうしの関係を考えたりしながら読んでいる	69.9%	71.4%	-1.5 ↓

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業改善に取り組みましよう

◆学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う

◆同音異義語を文脈に沿って正しく書くことに課題がありました。



<ポイント> 新出漢字を繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す学習などの中で、文脈に沿った正しい使い方を習得するようにしましょう。特に高学年では、熟語などの語句の使用が増加する時期でもあり、漢字のもつ意味を考えながら正しく使ったり、同音異義語に注意して使ったりする習慣を付けるようにしましょう。

◆目的に応じて、質問を工夫する

◆目的を明確にしてインタビューに臨み、自分の聞きたい内容に合わせて質問の仕方を工夫することに課題がありました。



<ポイント> インタビュー前に、聞いた内容をどのように活用するのか、自分が必要な情報は何か、誰にどのようなことを聞くのかを明確にしておくことが大切です。さらに、自分のもっている情報と知りたい情報とを整理し、自分のもっている情報と関係付けながら聞くことができるようにしましょう。また、実際のインタビュー場面を想定し、友達の質問の意図や工夫に気付かせるような活動も有効です。

→平成31年度【小学校】授業アイデア例 P7~8

言語活動が目的にならないよう、言語活動を通してどのような力を付けるかを明確しましょう。

- 指導事項を教師が理解し、付けるべき力が身につくよう、適切な言語活動を単元に位置付けることが基本です。その上で、児童が最後まで目的を意識して言語活動を遂行できるよう、単元全体の学習課題とつながるような課題を設定することが大切です。
- 何を、どのように書いているのか、話して (聞いて) いるのかだけでなく、なぜそのように書いているのか、なぜそのように話すと (聞くと) よいのかといった目的や理由、そのようにすることの効果などを考える学習の機会を設けていくことが大切です。

<具体的な授業改善例について> *以下の資料を参考にしてください。※学校教育支援サイトにもデータを掲載しています。